

# 病 院 だ よ り

院内助産について

院内助産担当者一同

流行しやすい感染症

葛原 健太

より良い看護をめざして

野瀬美里 佐々木聡実

国際親善総合病院

〒245-0006 横浜市泉区西が岡1-28-1  
TEL 045(813)0221 (代表)  
FAX 045(813)7419 (庶務課)

URL <http://shinzen.jp>

### 院内助産について

産科病棟では、平成21年度神奈川県モデル病院として、県からの支援を受け、院内助産の開設に取り組んでいます。

院内助産とは、「緊急時の対応ができる病院で、助産師が妊産婦やその家族の意向を尊重しながら妊娠から産後1ヶ月まで正常・異常の判断をし、お産を支援するシステム」です。院内助産における助産師の役割は、妊婦さんが望む自分らしいお産を自然体で出来るように見守り、自然に産む力、生まれる力を引き出すお手伝いと、異常を早期に判断し、緊急時には医師が駆けつけてくれる安心感を妊婦さんとそのご家族に提供することです。



助産外来で、妊娠中を健やかに過ごせるように妊婦さんだけでなくご家族を含めて保健指導を行なっています。赤ちゃんをどんな風に迎えるかを計画するバースプランも保健指導のなかで作ります。病院のなかであっても助産院のように家庭的な雰囲気の中で家族に見守られながら出産がしたい、分娩台で出産するのではなく自分の好きな姿勢でお産がしたい、生まれてすぐに赤ちゃんを抱きしめたいなど、妊婦さんとご家族が自由に考え、選択していきます。どんなお産にしたいかを考えるということは、日々自分の中に育っていく命を愛おしく感じることにつながり、赤ちゃんを大切にしたいという願いは、妊娠中の積極的な自己管理の取り組み、そして最終的には、リスクが少ない妊婦さんが望む自分らしいお産へと繋がっていきます。



病棟の構造も、フリースタイル分娩や立会い分娩が出来るように変更予定です。産後健診までを、助産師が責任を持って行い、その後の育児援助に継続させていけるように、助産師全員で技術力と知識力アップに努めています。

## 流行しやすい感染症

-その1-

今冬吹き荒れるか？新型インフルエンザの嵐！？



2009年4月、兼ねてよりやって来ると噂されていた“新型インフルエンザ”。その名が世界中を震撼させ、日本でも国家レベルにおける対策から、地域・個人においても対策が求められる感染症として世間を騒がせた事は皆さんの記憶にも新しいものと思われます。発生から4ヶ月余りが経過した現在、WHO（世界保健機構）発表による世界の症例数は20万人を超え（ほとんどの国で初冬に患者が急増）、うち2千人以上が亡くなっている状況です。日本においても日々感染者数が増加し、今冬予測される大流行に備え、各所で対策が協議されていますが、皆さんは新型インフルエンザに対する備えは出来ているのでしょうか？本格的な大流行を向かえる前に、基礎的な知識から予防接種、御家庭でできる新型インフルエンザ対策についても一度確認してみましょう。

まず抑えておきたいのが、新型インフルエンザの主な症状です。38度以上の高熱、全身倦怠感、咳、鼻汁、咽頭痛、消化器症状（下痢、嘔吐）など季節性のインフルエンザと症状は殆ど変わりません。しかし、今回の新型インフルエンザの特徴としては、若年者により多く感染しており、喘息や糖尿病、心疾患などの基礎疾患を持つ方や妊婦に重症化しやすい傾向にあります。その為、基礎疾患をお持ちの方はより感染しない様、個人においても十分な対策が必要です。

基本的な感染対策としては手洗い、うがい、マスクの着用、栄養と休息を十分に取ること、人ごみを避けることなどが挙げられます。中でも手洗いは、今から150年も前に誕生した非常に簡単な手技ではありますが、基本的かつ最も効果の高い感染対策として現在も医療の第一線で用いられています。最近では石鹸を使用した手洗いよりも、アルコール含有手指消毒を使用する方が簡便であり一般にも広く普及しています。しかし、正しい手技や知識がないと感染対策は十分なものではありません。是非、厚生労働省や国立感染症研究所ホームページをご覧ください、この健康懇話会にご参加いただいて、新型インフルエンザの嵐から身を守ってください。



感染管理認定看護師 葛原 健太

## ご案内

このテーマは

平成21年10月9日(金) 15:00～約1時間の健康懇話会にて

講演予定です。

(入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。)

## より良い看護をめざして

4B病棟は、循環器系を中心とした内科の病棟です。循環器とは、全身にくまなく張り巡らされている血管と、血液を送り出したり、戻したりするポンプの役目をしている心臓のことを言います。

循環器の病気とは、心臓と全身に血液を送る血管（動脈）、全身から心臓に血液を戻す血管（静脈）および肺の血管（肺動脈）に関係した病気を言います。全身へ酸素や栄養を送る心臓と血管は、例えば、水道のポンプと水道管の役目を果たすもので、循環器の病気は生命にも関わる重大なものが多いです。



4B病棟で入院されている患者さんは、主に狭心症・心筋梗塞・心不全の方が多く、心電図による24時間の観察や、点滴・服薬管理が大切になります。その他にも心臓カテーテル検査などの検査入院の方や、疾患についての学習目的で入院される方がいらっしゃいます。

また、循環器疾患は糖尿病、高血圧、高脂血症といった生活習慣病と深く関わっていると考えられている疾患です。そのため、入院中から患者さんそれぞれにあった再発防止への支援が必要であり、医師や看護師間でのカンファレンスを行い、意見や情報を共有し、病棟薬剤師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなど他部門とも連携をとって、食事療法や運動療法などを行ったりしています。



私たち看護師は、患者さん一人一人の個別性を重視した看護を実践し、入院中及び退院後の生活についてのサポートができるよう、専門性を活かした患者中心のより良い看護の提供を行うよう日々努力しています。